

# 平成 25 年度 発達障害医学セミナー

「発達障害の幼児期からの理解と支援」



【日時】2014 年 3 月 15 日（土）～16 日（日）

【場所】京都教育大学 C 棟 大講義室 1（京都府京都市伏見区深草藤森町 1 番地）

【参加者】138 名

【コーディネーター】郷間 英世（京都教育大学 発達障害学科）

【主催】公益社団法人 日本発達障害連盟

## ■ プログラム

---

(敬称略)

3月15日(土) 10:00-17:20

最近の幼児の発達のアンバランスさと発達障害 —k 式発達検査の標準化資料などをもとに—  
郷間 英世 (京都教育大学発達障害学科)

幼児期の療育と発達支援 —横浜市中部地域療育センターでの実践—  
原 仁 (横浜市中部地域療育センター・日本発達障害学会理事長)

発達障害の保護者支援 —幼児期—  
若子 理恵 (豊田市こども発達センター)

発達障害と虐待の脳科学  
友田 明美 (福井大学子どものこころの発達研究センター)

作業療法から見た不器用な子どもの理解と支援  
加藤 寿宏 (京都大学大学院医学研究科作業療法学講座)

3月16日(日) 9:00-13:00

幼児期からのことばとコミュニケーションの支援  
川合 紀宗 (広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター)

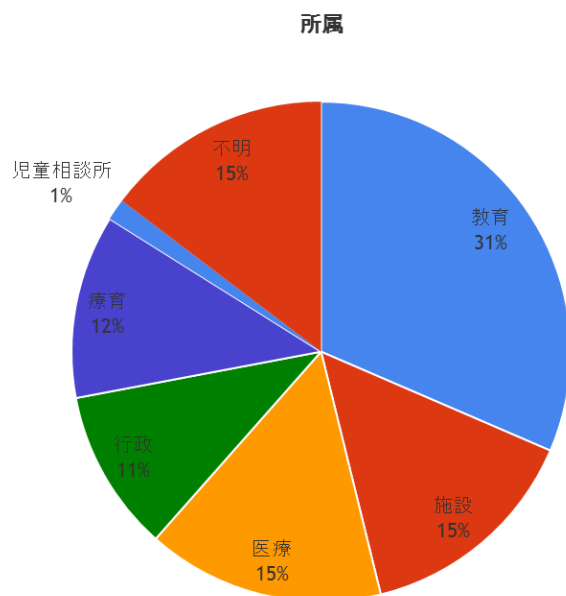
発達障害とエピジェネティクス  
久保田 健夫 (山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝医学講座)

医療機関における発達障害の診断と治療  
安原 昭博 (安原こどもクリニック)

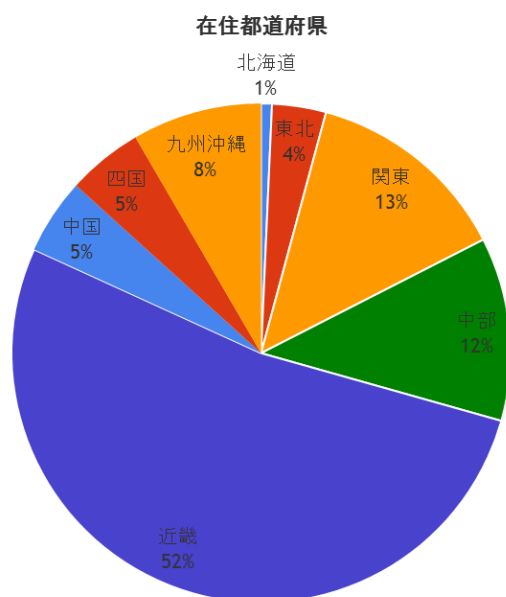
## ■ 参加者アンケート（回答 77 名）

---

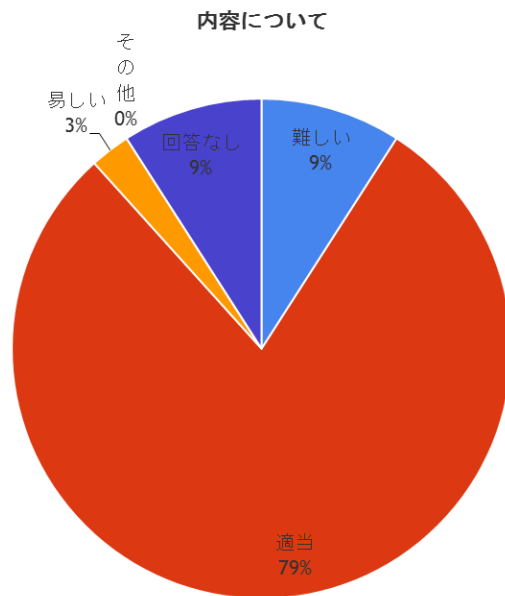
### ■ 所属



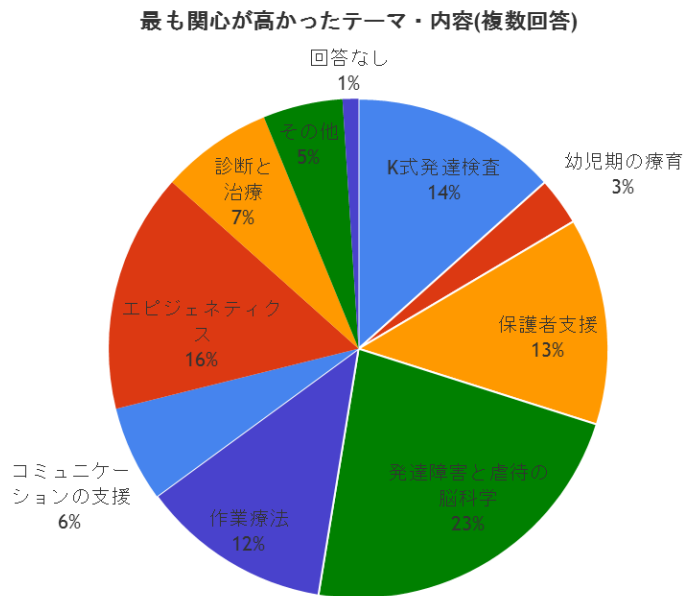
### ■ 在住都道府県



## ■ 内容について（難易度）

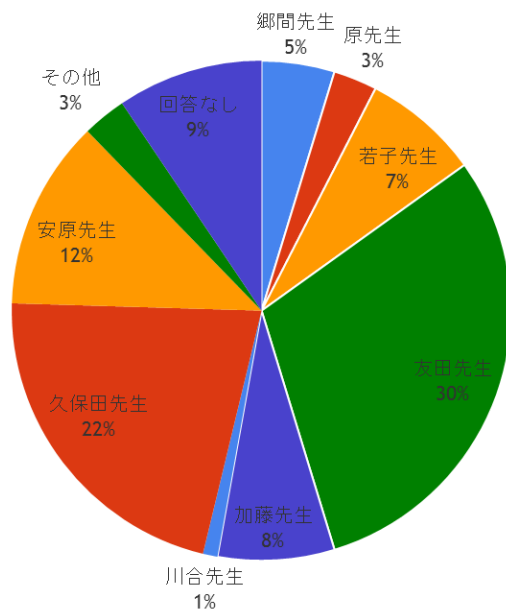


## ■ 最も関心が高かったテーマ



## ■ 最も印象に残った講師

最も印象に残った講師やその内容（複数回答）



## ■ 参加者の皆様からの声

「科学的な講義は福祉領域には少ないのでドクターの講義というところが魅力」

「1980年代と比べて発達が遅くなっていること、気になる子が増えていること。発達障害が増えている？日頃疑問に感じていたことを分かりやすく説明していただいた」

「小さい頃に受けた心の傷が発達にも影響していること。以前から発達障害と虐待児が同じ症状を呈するといわれていたがやはりと思った」

「評価スケールの紹介など、実際の子どもの様子と合わせて見せていただき分かりやすかった。不器用のタイプが4つあることがわかり、今後は分析的に見たいと思った」

「総合的にまとめられていてわかりやすかった。発達障害とは決して悪いものではない、ほめて育てるという言葉が印象に残った。」

「DNAが決定的なものでなく、可逆性があり回復可能という話を初めて聞いた」

「早く発見しケアすれば脳のダメージが回復するというお話で希望が持てた」

## ■ 最後に

ご参加、ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

どの講義も専門性の高い最新の研究、臨床の新たな知見を含み多面的に発達障害を理解する機会となり、

「三つ子の魂百まで」という言葉で代表される幼児期からの支援の重要性を確認できたセミナーとなりました。

なお、本セミナーの講演の内容は、診断と治療社より発行される「発達障害医学の進歩 26」に収録されます。